

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、「自己実現のサポート」体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入ってよかったと実感できる学校」づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、「社会の一員として自立」した生活を営むことのできる力を養う。

2 中期的目標

1 魅力ある授業づくりによる学力の向上

- (1) 自作のテストや学力調査を用いて学力、習熟度を正確に把握し学力の向上を図る。
※授業アンケート「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定率をR9も90%以上を維持する。(R4:90%、R5:94%、R6:91.7%)
- (2) タブレット端末やICT機器を活用して視覚支援を行い、魅力的で分かりやすい授業実践を進める。
※学校教育自己診断の「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)の項目の肯定的率をR9も90%以上を維持する。(R4:94.3%、R5:96.7%、R6:100%)
- (3) 教員の授業力の向上を図るとともに、個に配慮したきめ細かな指導を行う。
- (4) 定時制高校相互の授業見学を行い他校の先進事例の研究を推進する。
- (5) 日本語指導の充実を図り、外国籍や外国にルーツのある生徒の支援を強化する。
※授業アンケート「日本語指導の満足度」をR9も90%以上を維持する。(R4:100%、R5:99.5%、R6:93.5%)

2 支援体制の強化による自立自己実現の達成

- (1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組みを充実させる。
※学校教育自己診断(生徒)における「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率をR9も80%以上を維持する。(R4:83.3%、R5:85.7%、R6:90.6%)
- (2) 教育相談支援委員会の機能を充実させ支援力の向上を図る。
- (3) 生徒支援のため地域の関係諸機関との連携を強化する。
- (4) 人権意識の向上を図り「ともに学びともに育つ」環境の構築に努める。
※学校教育自己診断(生徒)における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率をR9も90%以上を維持する。(R4:90.3%、R5:90.3%、R6:100%)
- (5) 学校行事や定時制通信制の行事に積極的に参加することにより、豊かな人間性を育む。
※学校教育自己診断(生徒)における「文化祭、スポーツ大会、修学旅行等の行事は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率をR9も90%以上にす。(R4:97.1%、R5:86.7%、R6:90.9%)

3 キャリア教育の充実による進路の保障

- (1) 入学から卒業までの4年間(3年間)を見通したキャリア教育を実践する。
- (2) CCと連携して進路指導、就労への支援を強化し就職率の向上を図る。
※学校教育自己診断(生徒)における「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率をR9も80%以上にす。(R4:81.3%、R5:86.7%、R6:93.3%)
※アルバイト、非正規雇用も含めた就職率100%を達成する。[100%]
- (3) 卒業後長く働き続けることができるよう、研修やアフターフォローなどの取組みを充実させる。
- (4) 進学希望者に対し、希望している進路が実現するよう支援体制を強化する。
※学校教育自己診断(生徒)における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率をR9も90%以上を維持する。(R4:96.9%、R5:92.9%、R6:96.8%)

4 学校力の向上

- (1) 地域の中学校に対して、本校(定時制)について正しく理解してもらえるよう広報活動を活性化させる。
- (2) 落ち着いた学習環境を維持し新たな生徒指導体制を構築する。
※学校教育自己診断(教員)における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率をR9も90%以上にす。(R4:100%、R5:100%、R6:90%)
- (3) 災害から日常の緊急対応にいたるまで、生徒の安全・安心を守るための体制を構築する。
- (4) 放課後や授業開始前の時間を有効活用し、生き活きとした学校生活を送るための環境を整備する。
- (5) 教職員の働き方改革を進めて風通しの良い職場環境を構築し、何事にも組織として対応できる教職員集団を形成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 7 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回答数：生徒 31 名 (100% ※長欠除く)、保護者 6 名 (43%)、教職員 14 名 (88%)。 ・ 運用上の課題：今年度よりフォーム作成ツールによる回答方式を採用したが、保護者の回答率が大幅に減少 (43%) する結果となった。次年度に向けて、周知方法や回答環境の改善を検討する必要がある。 ・ 全体傾向：保護者からは極めて高い信頼を得ており、生徒も教育内容や相談体制に概ね満足している。一方で、教職員組織においては「学校行 	<p>第1回【6月30日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営計画の様々な項目で、数値がかなり上がってきた理由は、学校全体のねらいと教員の動きが明確になってきたからだと思う。 ・ コロナ禍以降小中学校で不登校が増加する中で、府立学校がどう生徒を受け入れていくかは、大手前高校に限らずすべての学校のテーマであるように思う。 ・ 他校で理由が分からないまま転学や退学していく生徒がおりそれを防ぐ対策の一つとして、居場所カフェを作り生徒の背景等をじっくり聞く場を作ってはどうかという議論があった。大手前高校でも、定時制高校のシステムの中で中学校時代に学校に行けなかつ

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>事の評価急落」や「組織運営の脆弱さ」といった課題が顕著に現れている。</p> <p>2. 対象者別の主要分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒：通学の「意義」と「満足度」の乖離 <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」は 77.4% (昨年度 84.8%) と唯一 80%を下回る結果となった。しかし一方で、「学校に来ている意味がある」は 90.3% へと上昇しており、通学に意義を見出している生徒は増えている。 部活動の満足度は 93.5% (前年度比 14.9 ポイント増) と大幅に上昇した。これは今年度より設問文にほかの人にとっても (有意義な時間だ) という文言を追記したことによる意識変化が要因の一つと推察される。なお、ICT 活用については 100% の生徒が肯定している。 保護者：高水準の信頼と参画意欲の向上 <ul style="list-style-type: none"> 「授業の満足度」や「家庭への連絡」など、多くの項目で 100% の肯定的意見を得ており、学校への信頼は非常に強固である。 昨年度の課題であった「授業参観や学校行事への参加」も 80.0% (昨年度 70.0%) へと改善が見られる。 教職員：教育実践の自負と組織運営の停滞 <ul style="list-style-type: none"> 「日常的な話し合い」や「図書館の活用」は 100% に向上したが、「学校行事の工夫」は 64.3% と、前年度から 30.7 ポイントも急落した。 「教職員間の信頼関係」や「問題行動への組織的対応」は 42.9% と依然として低い水準にある。自由記述では、職員会議における不適切な発言の抑制や、教務室のワンフロア化等の環境改善を求める声が上がっている。 <p>3. 短期的・長期的課題と目標</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">短期的課題と目標</th> <th style="width: 50%;">長期的課題と目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>「学校の楽しさ」の再構築。部活動や ICT 活用を通じ、日常的な登校意欲の回復を図る。</td> <td>「自己実現の場」としての価値定着。進路や生き方を考える機会 (現在 96.8%) を継続提供する。</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>参画機会の工夫。仕事等の都合を考慮し、生徒の活動を直接見られる機会を確保する。</td> <td>学校・家庭の一体化。教育方針への共感を深め、きめ細かな対応を維持・継続する。</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>心理的安全性の確保と行事の再検討。不適切発言を控え、行事の在り方を早急に見直す。</td> <td>有機的な組織体制の構築。単なる対話を超え、個の教育実践を組織の力へ還元する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 総括的な評価</p> <p>本校は、ICT 活用や相談体制といった「教育実践」において、生徒・保護者から絶大な信頼を得ている。しかし、その基盤となる教職員組織においては、人間関係や組織対応力に依然として課題を抱えている。この状況を一つの「建物」に例えるなら、「最新の設備が整い、住人 (生徒・保護者) からは快適だと喜ばれているが、土台や骨組み (教職員組織・信頼関係) に歪みが生じており、その修繕が急務となっている状態」といえる。今後の学校運営においては、教育活動の質を維持しつつ、教職員が安心して一体となって動けるような「内部の立て直し」を最優先事項として取り組むべきである。</p>		短期的課題と目標	長期的課題と目標	生徒	「学校の楽しさ」の再構築。部活動や ICT 活用を通じ、日常的な登校意欲の回復を図る。	「自己実現の場」としての価値定着。進路や生き方を考える機会 (現在 96.8%) を継続提供する。	保護者	参画機会の工夫。仕事等の都合を考慮し、生徒の活動を直接見られる機会を確保する。	学校・家庭の一体化。教育方針への共感を深め、きめ細かな対応を維持・継続する。	教職員	心理的安全性の確保と行事の再検討。不適切発言を控え、行事の在り方を早急に見直す。	有機的な組織体制の構築。単なる対話を超え、個の教育実践を組織の力へ還元する。	<p>た生徒が自分の気持ちを話し出したり、安心しだしたり、「これはもしかしたら行けるぞ」という気持ちを持たせるような居場所カフェ的な取組みをされてはどうか。これは他の学校にも必要な観点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の中での関係性作りも 1 つのポイントと思う。遠足でコミュニケーション作りが充実してきたとの報告があり、いろいろな行事の時にねらいを持ってされてきたように思う。 <p>第 2 回【11 月 13 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> (授業アンケートにおいて) 長年頑張って取り組んできたことが、このような数値に現れ努力が実ってきたと感じている。 少人数の授業において複数の教員が入っており、きめ細かく対応できており良かったと思う。 黒板に投影する際にどのような色を使うのが良いか。他校ではピンク色を使用しており本日見学した授業では緑色を使用していた。個人的には緑色が見やすかったように思う。授業においては見やすさや視覚支援が大事である。 今回見学した授業では、数値を身近なものやお金などに置き換えて、「自分にとって学習内容は何か」というところをうまく変換されていると思った。 高齢者と若者が一緒に学んでいるところや、学力の違いに関係なく教員や支援員がサポートしているところが良かったと思う。 生徒の中には年齢の高い生徒もいるが、その生徒の人生経験談から学ぶことができるのが定時制のメリットであると感じた。 <p>第 3 回【2 月 20 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回のアンケート結果では、3.6 を超えていた。第 2 回の学校運営協議会では、ルビ振りや外国籍生徒への丁寧な日本語指導といった真摯な取り組みが、成果 (数字) の土台になっているとの認識で一致した。今回のアンケート結果においても、その傾向は継続していると考えられる。 日本人の生徒が感じる「楽しい」と、外国籍の生徒が感じる「楽しい」は、同じ言葉であっても意味合いが異なる可能性がある。中には、「学校は楽しむ場ではない」と考える文化背景を持つ生徒もおり、「楽しい」と答えること自体をためらう場合も考えられる。また、「楽しい」よりも「学びに来ている」という意識が強い生徒もいるだろう。このように、回答の背景には文化的・価値観的な違いが影響している可能性がある。 人権作文の審査に携わったこともあるが、先日の全校生徒を前にしての作文披露には深く感銘を受けた。生徒さんのやる気を引き出す力が、学校全体に満ちていると感じた。ただ『書きなさい』と指示するのではなく、『この舞台で挑戦してみよう』と背中を押す、細やかな導きがあるのではないだろうか。先生方と生徒さんの間に流れる温かな関係性こそが、あの素晴らしい発表を生んだのだと感じている。 外部の力を借りることで先生方に少しでも余裕をもってもらい、その分を教育活動に充ててもらおうほうがよいのではないかなと思う。アンケート結果を見る限り、教職員の負担が大きいことがうかがえるため、そのような工夫が必要だと感じている。 卒業後のフォローアップを 3 年間継続されている点は心強く思う。3 年前に卒業した生徒さんが元気に活躍されている一方で、直近の卒業生に早期離職が見られる点は、今後の課題として注視すべき点かと思う。引き続き、進路先への訪問等を通じた粘り強いご支援をお願いしたい。 不登校支援や就労支援は、学校単独で完結するものではなく、地域や多様な団体が手を取り合い、高校生や青年期の方々、そして時には高齢層までを『網の目』のように包み込んでいく多層的な支援体制が、今こそ不可欠であると痛感している。
	短期的課題と目標	長期的課題と目標											
生徒	「学校の楽しさ」の再構築。部活動や ICT 活用を通じ、日常的な登校意欲の回復を図る。	「自己実現の場」としての価値定着。進路や生き方を考える機会 (現在 96.8%) を継続提供する。											
保護者	参画機会の工夫。仕事等の都合を考慮し、生徒の活動を直接見られる機会を確保する。	学校・家庭の一体化。教育方針への共感を深め、きめ細かな対応を維持・継続する。											
教職員	心理的安全性の確保と行事の再検討。不適切発言を控え、行事の在り方を早急に見直す。	有機的な組織体制の構築。単なる対話を超え、個の教育実践を組織の力へ還元する。											

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 魅力ある授業づくり	(1) 自作のテストや学力調査を用いて学力、習熟度を正確に把握し学力の向上を図る。	ア・1 学年では、高校入学後、定期考査を受験する「方法」の学びも含め、適切な時期を設定し、数学基本力調査や自作の漢字検定、日本語能力診断テストを行い、学力、習熟度を把握して、授業の重点内容に反映させる。	ア・授業アンケート「授業の進捗や難易度は自分にとって適切である」の肯定率 90%以上を維持する。[91.7%]	ア・第 1 回授業アンケートでは 92.4%、第 2 回授業アンケートでは 91.5%、総合 92%であった。(○)
	(2) タブレット端末や ICT 機器を活用して視覚支援を行い、魅力的で分かりやすい授業実践を進める。	ア・創意・工夫された授業や生徒の主体的な学びの促進に向け、1 人 1 台端末・ICT 機器や視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。	ア・学校教育自己診断の以下の指標 ・「教え方に工夫している先生が多い」(生徒) の肯定率 90%以上[100%]を維持する。 ・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫	ア・学校教育自己診断における ・「教え方に工夫している先生が多い」(生徒) の項目における肯定率は 93.5%となった。(○) ・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教

府立大手前高等学校 定時制の課程

り よ る 学 力 の 向 上	<p>(3) 教員の授業力の向上を図るとともに、個に配慮したきめ細かな指導を行う。</p> <p>(4) 定時制高校相互の授業見学を行い他校の先進事例の研究を推進する。</p> <p>(5) 日本語指導の充実を図り、外国籍や外国にルーツのある生徒の支援を強化する。</p>	<p>イ・タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器を有効活用するための研修に参加したり校内研修を実施したりし、魅力的な授業を展開できるよう研究を進める。</p> <p>ア・「3つの観点に基づく学力の伸長」をねらいとした研究公開授業週間を実施し、教職員同士で学びあえる機会となるよう工夫する。</p> <p>イ・きめ細かな指導を実践できるよう時間割上の工夫を行い、複数の教員で指導できる体制を構築する。</p> <p>ア・他府県も含め他の定時制高校で実施される公開研究授業や授業見学を年間5回以上実施し、優れた授業実践から学び授業改善に繋げるとともに定時制高校ならではの授業の構築を図る。</p> <p>ア・「いきいき」(総合的な探究の時間)及び0限に日本語指導の講座を開設し、日本語指導の充実を図る。</p> <p>イ・日本語指導や多文化教育研修に参加し、その知見を共有する。</p>	<p>している」(教員)の肯定率90%以上[94.4%]を維持する。</p> <p>・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の肯定率90%以上[100%]を維持する。</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)における「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率90%以上を維持する。[94.7%]</p> <p>ア・校内授業実践研究計画のもと、「公開授業週間用授業参観シート」等を作成し、情報共有する。</p> <p>イ・8割以上の授業においてチームティーチング(学習支援員・学習支援スタッフを含む)を実施する。</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を80%以上にする。[75%]</p> <p>ア・授業アンケート「日本語指導の満足度」80%以上[93.5%]を維持する。</p> <p>イ・研修に参加して得た知見を関係職員に報告し、情報共有を図る。</p>	<p>員)の項目における肯定率は92.9%となった。(○)</p> <p>・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の項目における肯定率は100%となった。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)における「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率は92.9%となった。(○)</p> <p>ア・公開授業週間において、授業見学に「公開授業週間用授業参観シート」を作成し、一覧表にまとめて情報共有と意見交換を行った。(○)</p> <p>イ・ホームルームや総合的な探究の時間、少人数で授業を行っている芸術を除いた68コマのうち81%に当たる55コマの授業においてチームティーチングを実施することができた。(○)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率は71.4%にとどまった。(△)</p> <p>ア・第1回授業アンケートでは96.5%、第2回授業アンケートでは88.9%、総合92.9%であった。(○)</p> <p>イ・日本語指導を担当している非常勤講師を含めたすべての教員がミーティングを行い、研修の情報共有だけでなく普段の授業の様子について意見交換を行うことができた。(◎)</p>
2 支 援 体 制 の 強 化 に よ る 自 立 自 己 実 現 の 達 成	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組みを充実させる。</p> <p>(2) 教育相談支援委員会の機能を充実させ支援力の向上を図る。</p>	<p>ア・中学校や福祉機関等と連携して、新入生の生徒情報を収集し、「高校生活支援カード」に集約する。</p> <p>イ・全教職員が生徒の情報を共有し、生徒一人ひとりへの細やかな支援方を検討する。細やかな指導で卒業まで個別支援を行う。</p> <p>ア・要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、生徒支援体制を充実させるとともに、SC及びSSWとの連携を強化し生徒支援を充実させる。教育相談支援委員会においてSC、SSWとの連携を強化する。</p>	<p>ア・「高校生活支援カード」の作成、活用率100%[100%]にする。</p> <p>・入学した生徒の出身中学へ訪問して聞き取った内容をSSWと共有する。</p> <p>イ・卒業予定者数に対する卒業率を80%以上[100%]を維持する。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率80%以上[90.6%]を維持する。</p> <p>・学校教育自己診断(教職員)における「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率80%以上[89.5%]を維持する。</p> <p>ア・SC、SSWいずれかが同席の教育相談支援委員会をはじめとする各種会議を年間10回以上[10回]実施する。</p> <p>・学校教育自己診断(教員)における「様々な問題行動の防止の</p>	<p>ア・全生徒が作成し入学直後の懇談時に活用した。(○)</p> <p>・訪問もしくは電話で聞き取りを行い教育相談支援委員会でSSWと情報共有を行った。(○)</p> <p>イ・長期欠席中の生徒1名を除く6名の4年生全員が卒業することができた。100%(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率は90.3%となった。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(教員)における「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率は92.3%になった。(○)</p> <p>ア・教育相談支援委員会をはじめ学年会やケース会議など年間10回の会議にいずれかが同席し、実施することができた。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(教員)における「様々な問題行動の防止のための早</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>(3) 生徒支援のため地域の関係諸機関との連携を強化する。</p> <p>(4) 人権意識の向上を図り「ともに学びともに育つ」環境の構築に努める。</p> <p>(5) 学校行事や定時制通信制の行事に積極的に参加することにより、豊かな人間性を育む。</p>	<p>ア・不登校・引きこもり生徒の支援を充実させるため地域の関係諸機関との連携を強化する。</p> <p>ア・系統立てた人権研修を実施し、教職員の人権意識の向上を図る。</p> <p>イ・人権教育推進委員会を活性化させ、人権ホームルームを充実させるとともに生徒向けの人権講演会を実施し、生徒の差別や偏見を許さない環境を構築する。</p> <p>ア・スポーツ大会、修学旅行、文化祭、ホームルーム研修等の学校行事におけるクラスや生徒会の取組みを充実させ、集団で活動する楽しさ、難しさを体験し、思いやりのある集団作りに努める。</p> <p>イ・生徒秋季発表大会や人権文化発表会等に積極的に参加し、生徒個々の能力を引き出し、個性の伸長を図る。</p>	<p>ための早期指導に学校全体で取り組んでいる」の肯定率を70%以上にする。[57.9%]</p> <p>ア・自治体が開催する不登校・引きこもりの若者を支援する地域協議会に年間5回以上出席する。</p> <p>ア・教職員向けの人権研修を年間5回以上実施し、そのうち1回は全日制と共同開催とする。[6回]</p> <p>イ・生徒向け人権講演会を年間1回以上実施する。[2回]</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率90%以上を維持する。[100%]</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「文化祭、スポーツ大会、修学旅行等の行事は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率を90%以上にする。[90.9%]</p> <p>イ・外部で開催されるコンクールなどに5名以上参加する。</p>	<p>期指導に学校全体で取り組んでいる」の肯定率は50%にとどまった。(△)</p> <p>ア・自治体が開催する不登校・引きこもりの若者を支援する地域協議会への出席は年間4回にとどまったが、自治体が主催する「不登校支援のイベント」に2名が参加し本校の取組みについて情報発信することができた。(○)</p> <p>ア・大阪府教育センターで開催される人権研修A～Eの伝達研修を実施(それぞれ1回、合計5回)した他、外部講師を招いた全日制と合同の研修を実施した。(○)</p> <p>イ・外部講師を招いて「同和問題の基本」について人権講演会を開催した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は96.7%となった。(○)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「文化祭、スポーツ大会、修学旅行等の行事は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率は96.8%となった。(◎)</p> <p>イ・生徒秋季発表大会の「生活体験発表の部」に1名、「作品発表の部」に8名14作品が参加し合計5つの賞を受賞した。また、人権作文コンクールで2名の生徒が最優秀賞を受賞するなど日ごろの学習の成果を大いに発揮することができた。(◎)</p>
3 キャリア教育の充実による進路の保障	<p>(1) 入学から卒業までの4年間(3年間)を見通したキャリア教育を実践する。</p> <p>(2) CCと連携して進路指導、就労への支援を強化し就職率の向上を図る。</p>	<p>ア・各学年の進路HRや進路講演会、個別面談等を通じて就労、進学へ結びつける指導を推進する。</p> <p>イ・「進路だより」を発行し保護者に学校での指導の様子を知らせ、家庭と連携したキャリア教育を実践する。またホームページにも掲載することにより地域や企業との連携を図る。</p> <p>ウ・在学中に適性検査を実施し、各自が持つ潜在的な能力や適性を把握してキャリアを考える資料として活用する</p> <p>ア・就労意識の向上と社会体験を積むことを目的にアルバイトへの挑戦、継続を支援する。</p> <p>イ・「いきいき」(総合的な探究の時間)に進路</p>	<p>ア・各学年就職、進学へ結びつける指導を、1～3年生は年間4回以上、4年生は15回以上実施する。[1年16回、2年10回、3年10回、4年30回]</p> <p>イ・「進路だより」について年間5回以上[5回]発行しすべてホームページに掲載する。</p> <p>ウ・最終学年(3年次、4年次)までに職業レディネステストまたは職業適性検査を実施し、ホームルームや「いきいき」(総合的な探究の時間)で活用する。</p> <p>ア・アルバイトを希望する生徒全員に面接練習や履歴書作成の指導など具体的な取組みを実行する。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)にお</p>	<p>ア・進路HRを1年生は16回、2年生は13回、3年生は15回、4年生は36回実施した。(◎)</p> <p>イ・「進路だより」を年間5回紙媒体で発行するとともに、すべてホームページに公開し、保護者や関係機関と情報共有を図ることができた。(○)</p> <p>ウ・3年生に職業適性検査を実施し、検査の結果については適宜ホームルームや「いきいき」(総合的な探究の時間)で活用することができた。(○)</p> <p>ア・2名の生徒に対してアルバイトの相談を受け、面接練習や履歴書作成の指導など、アドバイスをを行った。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)における「将</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>(3) 卒業後長く働き続けることができるよう、研修やアフターフォローなどの取組みを充実させる。</p> <p>(4) 進学希望者に対し、希望している進路が実現するよう支援体制を強化する。</p>	<p>に特化した講座を設け、就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</p> <p>ア・就職希望者が職業に対する正しい知見を得たり、自分に適した職業を選択したりできるような取組みを充実させる。</p> <p>イ・卒業後すぐに退職してしまうことが無いよう、長く働き続けるための支援を充実させる。</p> <p>ア・「いきいき」(総合的な探究の時間)の時間や、放課後や始業前の時間を活用し進学指導体制の充実を図る。</p> <p>イ・HR や懇談会等を活用して奨学金制度について周知し、大学進学にあたって課題を抱えている生徒を支援する。</p>	<p>ける「将来の進路や生き方について考える機会がある」を80%以上を維持する。[93.3%]</p> <p>・アルバイト、非正規雇用も含めた就職率100%を達成する。[100%]</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率を80%以上にする。[70.6%]</p> <p>イ・教員によるアフターフォローのための企業訪問を年間1回以上実施する。</p> <p>ア・進学希望者全員の進路を決定する。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率90%以上を維持する。[96.8%]</p>	<p>来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は96.8%となった。(○)</p> <p>・就職希望者1名の就職(正規雇用)が決定し就職率は100%になった。(○)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」の肯定率は71.4%で、昨年度より上昇した。(○)</p> <p>イ・卒業3年以内の生徒の就職先を訪問し、困りごとがないかなどを確認した。(○)</p> <p>ア・進学希望者1名の進学先(大学)が決定した(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)における「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」の肯定率は96.8%になった。(○)</p>
4 学校力の向上	<p>(1) 地域の中学校に対して、本校(定時制)について正しく理解してもらえよう広報活動を活性化させる。</p> <p>(2) 落ち着いた学習環境の維持し新たな生徒指導体制を構築する。</p> <p>(3) 災害から日常の緊急対応にいたるまで、生徒の安全・安心を守るための体制を構築する。</p> <p>(4) 放課後や授業開始前の時間を有効活用し、生き生き</p>	<p>ア・夜間学級以外の中学校に定時制高校について正しく理解してもらえよう広報活動を積極的に行い、学齢期の生徒確保に繋げる。</p> <p>イ・中学校への広報で本校の良さをアピールする機会を増やす。</p> <p>ア・学校生活のマナーについて組織的な指導体制を構築し、生徒が安心して学習に取り組める環境を構築する。</p> <p>イ・生徒指導部を中心に登校指導や授業中の巡回を行い、生徒が落ち着いた学習環境で学ぶことができるよう規律指導を行う。</p> <p>ア・区役所や消防署、地域と連携した訓練を実施し安全安心な学校、地域づくりを促進する。</p> <p>イ・防災アドバイザー派遣事業を活用して効果的な研修を実施し教職員の防災意識と危機管理能力を向上させる。</p> <p>ア・年度当初だけでなく年間を通じて部活動への参加を呼びかけ部員増加につなげるとともに、活動内容の充実を図る。</p>	<p>ア・在校生の出身校を中心に本校の学校パンフレットを持参して広報活動を行う。</p> <p>イ・中学校向けの学校説明会を2回[2回]実施する。</p> <p>・中学校において本校の説明を行う会を実施する。[1回]。</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率90%以上を維持する。[90%]</p> <p>イ・授業アンケート「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」を90%以上を維持する。[93.4%]</p> <p>ア・定時制(教職員・生徒)と地域自治会の共催による災害時避難所実習(訓練)を実施する。</p> <p>イ・全日制と合同の教職員防災講演会を実施する。</p> <p>ア・部活動に入部する生徒の割合30%以上を維持する。[42.6%]</p> <p>・文化祭に部活動から舞台の部も</p>	<p>ア・夏季休業を中心に8名の教員が在校生の出身校も含めて近隣の中学校25校を訪問し、本校のPR(広報活動)を行った。(○)</p> <p>イ・中学生向けの学校説明会を11月に2実施した。(○)</p> <p>・9月に中学校の夜間学級において本校の説明会を2回実施し、本校の特色についてアナウンスを行った。(○)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教員)における「この学校では、生徒の話をよく聞いて丁寧な生徒指導を行っている。」の肯定率は84.6%にとどまった。(△)</p> <p>イ・第1回授業アンケートでは97.7%、第2回授業アンケートでは90.3%、総合94.2%であった。(○)</p> <p>ア・7月に地域自治会と連携した避難所開設実習を実施した。実習後は区役所・消防署・警察署・学校防災アドバイザーから講評と指導助言をいただいた。(○)</p> <p>イ・12月に学校防災アドバイザーを講師として招いて全日制と合同の教職員防災講演会を実施し、連携強化を図ることができた。(○)</p> <p>ア・年度当初在籍生徒48名中、33名の生徒が部活動に入部、もしくは一部の活動に参加しており、部活動への参加率</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>とした学校生活を送るための環境を整備する。</p> <p>(5) 教職員の働き方改革を進めて風通しの良い職場環境を構築し、何事にも組織として対応できる教職員集団を形成する。</p>	<p>イ・学力の向上及び余暇を活用する力の向上のために、図書館を有効活用できるよう啓発活動に努める。</p> <p>ア・ノークラブデー、全庁一斉退庁日、夏季冬季休業中の学校閉庁日の実施を徹底する。</p> <p>イ・教職員一人ひとりと対話する時間を増やし、困りごとを一人で抱え込まないよう啓発に努める。</p> <p>・首席会(管理職と首席による情報共有の会)や担任の情報交換会を適宜開催し、各学年、各分掌の現状や課題について情報共有を行い、組織としての対応力を向上させる。</p>	<p>しくは展示の部において発表を行う。</p> <p>イ・図書の貸出し数を増加させられるよう工夫を凝らした啓発活動を実施し、年間の貸出し数を50冊以上にする。[77冊]</p> <p>ア・ストレスチェックにおける総合健康リスクを向上させる。[115]</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)の以下の項目について肯定率[75%]以上にする。</p> <p>・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」[35%]</p> <p>・「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」[57.9%]</p> <p>・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」[38.9%]</p> <p>・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」[44.4%]</p>	<p>は68.8%となった。(○)</p> <p>・11月に開催した文化祭において、軽音楽部が舞台発表を行い、書道部・美術部・図書文芸部が作品の展示を行った。(○)</p> <p>イ・毎月「図書館だより」を発行するなど生徒に対する啓発に努め、年間の貸出し数は68冊になった。(○)</p> <p>ア・ストレスチェックにおける総合健康リスクは106となり昨年より9ポイント向上した。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)における</p> <p>・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」の肯定率は42.9%にとどまった。(△)</p> <p>・「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」の肯定率は50%にとどまった。(△)</p> <p>・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率は50%にとどまった。(△)</p> <p>・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の肯定率は42.9%にとどまった。(△)</p>
---	---	---	--